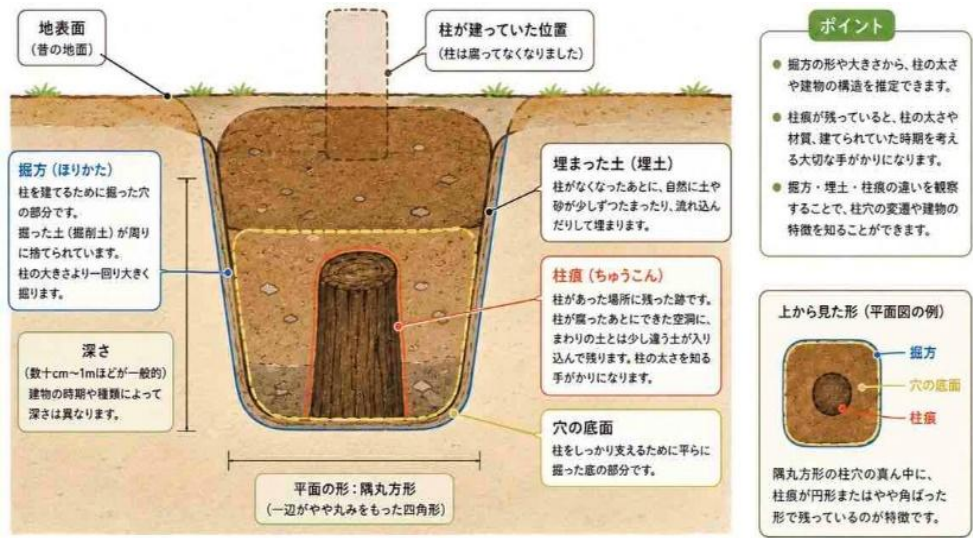


2. 調査の成果

今回の発掘調査は、町立中央公民館の跡地に複合化施設の建設が計画されているため、それに先立って実施しています。調査区は東西 18m×南北 50mで、南側を 1 区、北側を 2 区としました。1 区の調査は 5 月末で終了し、6 月から 2 区を調査中です。

1 区では、湿地状の落ち込み（SX101）とこれに関連したとみられる近世後半以降の石積（護岸施設）、平安時代を中心に鎌倉時代までの柱穴・土坑、小穴群を 300 基ほど確認しました。掘立柱建物が 1 棟、柵列は 3 列以上に復元できそうです。北部中央付近に位置する掘立柱建物（SB101）は東西 2 間（4 m）×南北 3 間（7 m）の規模で、柱間は約 2.0～2.5mあり、北から東に約 5° 傾いています。時期は平安時代（9 世紀頃）の可能性があり。1 区では、墨書土器・中国産白磁が出土しました。

2 区では、1 区に比べて規模が大きく、平面形状が隅丸方形の柱穴を 150 基ほど確認しています。東西方位あるいは南北方位に並ぶものがあり、柵列になると考えられます。明確な掘立柱建物は復元できていません。ただし、北部東端で柱間が約 2.0～2.2m、方形に並ぶ柱列を確認しており、東西 2 間（4 m）×南北 2 間（4 m）で、北から東に約 24° 傾いた平安時代（9 世紀頃）の掘立柱建物（SB102）になる可能性があります。また中央やや南寄りでは、特徴的な柱穴（P 411）を確認しました。一辺が約 1 m の隅丸方形で、深さは約 0.6m あります。掘方が版築状（薄い層が何層も重なり縞状に見える）に埋められていました。こうした埋土と同じ柱穴は、まだ発見できていません。建物を構成する柱穴の 1 つであれば、大型で丁寧かつ強固に建てられたものであったことが推測できます。例えば、役所や倉庫など居住以外の機能を持つ建物であったのかもしれませんが。2 区では、周辺からの流入と考えられますが、縄文～弥生時代の石鏃も出土しました。



第 4 図 柱穴断面模式図（イメージ）

3. まとめ

今回の調査では、掘立柱建物や柵列を構成する柱穴をはじめ、多くの遺構を確認することができました。当地では、建物が何度も建て替えられながら、長期間にわたる人々の営みを想像することができます。

出土遺物は多くないうえ、ほとんどが小片です。しかし、平安時代の高級品である緑釉陶器や灰釉陶器、さらには墨書土器の破片も出土しています。これは百々遺跡の性格として、一般庶民が居住した場ではなく、貴族など一定階層の人々が居住した場という想定を迫認するものと言えるでしょう。

（生涯学習課 文化芸術係）

百々遺跡発掘調査 現地説明会 資料

大山崎町教育委員会

遺 跡 名 百々遺跡（IK83 次調査）
調 査 地 大山崎町字円明寺小字夏日 26
調査期間 令和 8（2026）年 3 月 3 日～7 月末（予定）
調査面積 900 ㎡（1 区 540 ㎡・2 区 360 ㎡）
〔検出遺構〕掘立柱建物、柵列、柱穴、土坑、溝、湿地状の落ち込み（石積）
〔出土遺物〕土師器、須恵器、黒色土器、製塩土器、墨書土器、緑釉陶器、灰釉陶器、中国産白磁、瓦器、瓦質土器、施釉陶器、瓦類、鉄製品、石製品（石鏃）ほか

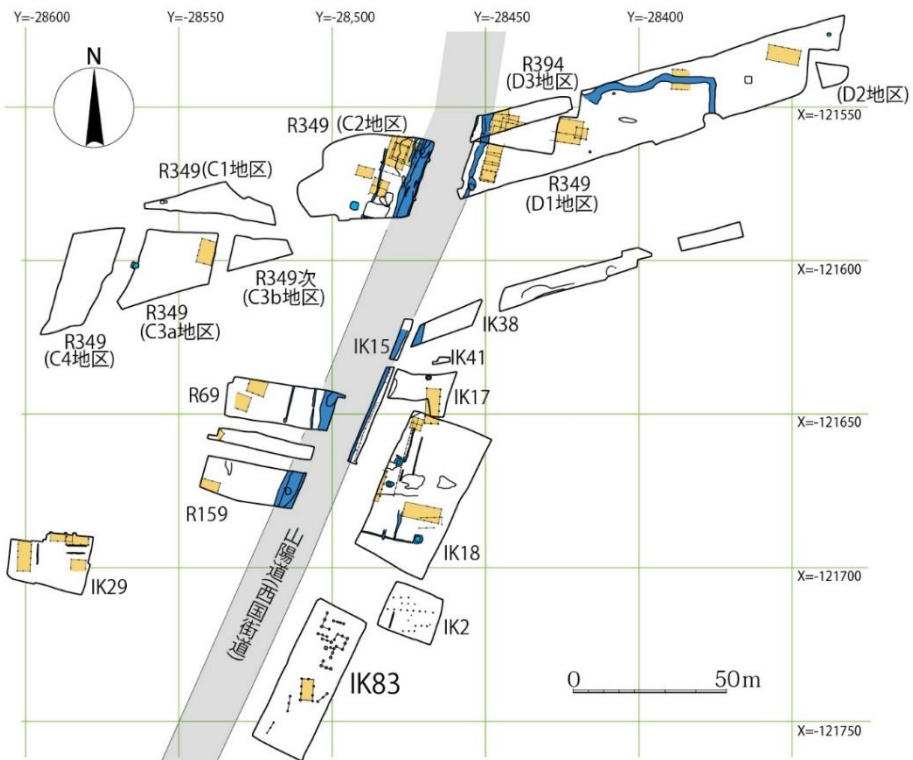


第 1 図 調査地位置図（1:10000）

1. 百々遺跡について

百々遺跡は、大山崎町役場付近を中心に、東西約 500m×南北約 750mの範囲に広がる奈良～鎌倉時代の集落跡で、山陽道（西国街道）の周辺に展開しています。過去の調査では、西国街道に沿って平安時代（8 世紀末～11 世紀初頭）の山陽道の路面と道路側溝が確認されており、西国街道が古代の山陽道とほぼ重なることが分かっています。

山陽道の両側では、掘立柱建物・井戸が多く見つかっており、道路側溝や井戸から木簡・墨書土器・銭貨・祭祀具など、長岡京や平安京といった「都城」と同じ様相を示す遺物が出土しています。こうしたことから、百々遺跡には身分の高い人々（貴族層など）が生活していた可能性を想定することができます。北側の役場庁舎の建設に先立って、平成 5（1993）年に IK18 次調査が実施されました。平安～鎌倉時代の柱穴や土坑をはじめ、掘立柱建物・井戸・柵列・溝などが確認されました。遺物は緑釉陶器や墨書土器、土馬・斎串、帯具や銭貨なども出土しています。



第 2 図 周辺での遺構検出状況図（1:2500）



写真1 調査地から役場庁舎を臨む（南から）



写真2 1区遺構掘削状況（北東から）



写真3 SX101 石積検出状況（東から）



写真4 SB101 検出状況（北から）



写真5 2区遺構掘削状況（北東から）



写真6 P411 断面（北から）



写真7 SB102 カ検出状況（北から）



写真8 緑釉陶器皿（1区出土）